

<模試分析シートの総評>

全く問題なく、初回でよく分析できている受験者は1-2名いるかいないか程度だった。

いくら問題集をやりこみ成績をのばしても、試験本番でしっかり決めることができなければ合格はないということをいま一度しっかり理解し重要視すること。

そのための貴重な練習の機会として模試があるが、年間をとおしても模試は数回しかないため、1回の模試に本番を想定し緊張感をもって取り組むことがいかに重要か、再度認識すること。

受験本番はどの模試よりも緊張し、よくない状態で迎えることになる。模試では工夫して緊張する環境をつくることも大切。

<採点への意識が甘い>

採点の計算（足し算）が違っていたり、正しく採点できていない（数学で解答に $t > a$ が指定されているにも関わらず無視して丸にしているなど）、そもそも数学や英語、生物等の記述の採点をしようともしていないなど、明らかに雑に行っている受験者が多かった。

河合模試は解説が非常に丁寧で、自分で採点し解説をじっくり読むことで理解も深まる。また英作文では自分の表現はどうしてダメかをインターネットで調べたりすることで使える表現も多くなる。

採点の計算（足し算）が間違っていたり記述の採点がまともにできない人が受験本番でミスなく決めることができるとは思えない。

<ミスへの意識が甘い>

今回10%以上（英数は20点、理科は10点以上）のミスがあった人は大いに反省すること。

ある程度勉強してきた受験生が失敗する（不合格になる）原因は5-10%のミス。

ミスが命取りになるのが医学部受験の最も厄介な点。センター試験や私立医学部の多くは、たとえやり方があっていても答えが間違っていたら部分点すらもらえず0点になることがほとんどだということを強く認識すること。

今回の模試が受験本番だったらどうだったかを今一度考え、ミスをした箇所は同じミスを二度としないようじっくり考え対策を練ること。

ミスを減らすことは非常に難しく、ミスの原因も人それぞれであり、自分自身がミスの原因を分析し、ミスをしないよう対策を考えて試行錯誤するしか方法はない。

そして、この試行錯誤は年間数回の模擬試験でしかできないということを再認識すること。

こうした訓練をせずに1年間が過ぎ、センター試験本番や私立医学部の最初の受験校でミスをして失敗したと泣きつかれても、できることは話を聞いてあげること以外何ありません。

また、ミスではないもの（単語ミス、文法ミス、確率の場合わけミス、範囲設定ミスなど）をミスと捉えている受験者もいるがこれは論外。

<模試の反省>

重要な点は、改善策をいかにシンプル、具体的、実行可能なところまで考えるかということ。そのために模試での反省点を出来る限り書き出すし、いかに改善していくかをじっくり考えることが大切。

よくない例：結果への願望だけ

次は計算ミスが減らしたい。時間配分がうまくいかなかったのでよくしたい。

数学で8割とる。偏差値70とるなど。

そもそも点数や偏差値は結果論であり、点数や偏差値を目標にはせず、プロセスへの覚悟をすること。

プロセスとは問題集を5周する、講義型の参考書を3回読み込む、現象を人に説明できるくらい深く理解する、公式はすべて言語化して理解する、DUOの英文はすべて暗唱できるようにする、など。

その結果として点数や偏差値がある。

結果への願望だけ書いている人は何の改善もないまま次の模試を迎えることになります。

<模試で実行すること、注意すること>

試験中だけでなく、試験前後や家をでるとき、試験前日にまで注意を払うこと。

昼食をコンビニに休憩時間に買いにいっている受験者がいたが、大いに反省すること。

準備が9割。当然体調不良や遅刻は論外。

<目標点数、結果>

目標点数と採点結果が大きく解離している場合、正しく自己分析ができていないということ。

受験本番は自分自身の手応えだけを頼りに判断していく必要があるため、10%以上乖離があるのは論外。

<最後に・・・>

繰り返しになりますが、こうした自己分析と改善策を自分で常に考える力をつけていかないと、成績自体も伸び悩む（だいたい偏差値65以上になると伸びない教科は伸びなくなります）上、たとえ成績がのびても受験本番でしっかり決めることができません。

日々の勉強以上に分析を考えることが大切だということを再認識すること。

また受験生向けガイダンス資料を常に携帯し何度も読み込むこと。必要なことはすべて書いています。

今回、分析シートのフィードバックは、受験者の分析のレベルに比例しています。

（簡単にいうと、よく分析できている人ほどしっかりフィードバックしています）

以上。